

命を守る！防災教育推進事業
防災教育実践事例集



令和6年3月
青森県教育委員会

はじめに

近年、日本では地震や津波、台風、豪雨などの様々な自然災害が頻発しており、これらの災害によって、多くの人命や財産が失われ、社会や生活に深刻な影響が及んでいます。私たちが暮らす青森県においても、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル及び日本海の大規模地震モデルを基に、県が令和3年5月に公表した津波浸水想定図によると、八戸市では最大26.1 m、青森市でも最大5.4 mの津波が想定されるなど、私たちがこれまでに経験したことがない災害が発生する可能性があります。また、令和3年8月には下北地域を中心に大規模な土砂災害が発生したほか、令和4年7月には津軽地域を中心に河川の氾濫に伴う洪水浸水が発生するなど、気象災害の激甚化・頻発化による私たちの生活への影響が顕著になってきております。こうした実情を踏まえると、災害に備え自分の命を守るためには、防災に関する知識や技能、そして地域との連携や協力の精神を身に付けることが必要であり、本県の将来を担っていく子どもたちに対する学校での防災教育が今後ますます重要になるものと考えております。

この実践事例集は、県教育委員会が令和3年度から実施した「命を守る！防災教育推進事業」における研究指定校6校で行われた防災教育の取組などを紹介するものです。各教科や総合的な学習の時間、特別活動などで行われた防災教育の具体的な内容のほか、地域や関係機関との連携に関する成果や課題について、写真や図表などを交えて分かりやすくまとめました。各指定校では、地域の実情に応じて防災教育のカリキュラムや指導法を工夫し、児童生徒の防災に関する知識や意識、行動力を育てております。本実践事例集が、県内全ての学校・地域の防災教育の参考になり、これからの防災教育の一層の充実と発展に寄与することを願っております。

結びに、本実践事例集の作成に当たり、御協力いただいた研究指定校の先生方や児童生徒の皆さん、そして全ての関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

青森県教育庁スポーツ健康課

課長 伊藤 明德

目次

巻頭言 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人

I 章 「命を守る！防災教育推進事業」について

1	本事業の背景と目的	1
2	実施方針	2
3	本事例集の構成	3
4	「あおもりおまもりノート」について	4

II 章 先進地視察結果

1	令和3年度	5
2	令和4年度	15

III 章 研究指定校実践事例

1	外ヶ浜町立三厩中学校	23～50
2	深浦町立修道小学校	51～80
3	弘前市立石川小学校	81～108
4	三沢市立第三中学校	109～136
5	むつ市立川内小学校	137～170
6	八戸市立三条中学校	171～193

巻頭言

弘前大学教育学部

教授 小岩 直人

2011年の東日本大震災を受けて、防災教育で必要とされる内容は大きく変化してきました。例えば震災以前は、災害発生の危険が高まった際には、教員の指示の下、素早く避難することが重要であるとされてきましたが、現在では、学校管理下でない災害時にも自分で対応できるように、児童・生徒が自ら判断、行動できるための力を養う防災教育が必要であるとされています。

青森県では、豊かな景色に取り囲まれながら、おいしい魚介類、りんご、米、野菜などの農産物を食べることができ、私たちは自然の恵みをたくさん受けて生活していると言えるでしょう。青森県の緑豊かで景色のすばらしい山々は、土地が盛り上がり、火山が噴火したりしてできたものです。また、多くの農産物をつくる土台となる台地も、地震に伴って土地が盛り上がりつくられますし、そこで農業に利用される土も火山から噴出されたものが起源となっています。水田が広がる川や海の近くの低い土地は、河川の洪水によって土砂が溜まってつくられたものです。これらの自然現象が起こる時、人間がその場所に居合わせてしまった場合には、命の危機にさらされてしまい、災害が起こる可能性が高くなってしまいます。しかし、その時間は、私たちが恩恵を受けてきた時間に比べるととても短いものです。自然が大暴れする時間は、私たちは安全な場所に逃げて過ごすべきであり、不幸にも被害を受けてしまったところでは、ともに助け合うことが大事だと思います。

自然と密接に結びついた生活をしている青森の私たちは、きちんと防災・減災に関する知識を得て、いざという時のために備えた訓練をしなければならないと言えるでしょう。「命を守る！防災教育推進事業」では、このような青森県の特徴をふまえ、児童・生徒自ら判断、行動できるための力を養う防災教育の実践を目指して、6つのモデル校で様々な取組を行っていただきました。防災を行う際には、学校や学区の実態にあった防災が必要とされ、そのためには、地域の協力や学校と地域との連携が必要不可欠であることが指摘されています。各学校の防災に関わる担当の先生方の中には、地域との連携・協力が難しいと考えている方も相当おられると思います。本事業の事例には、地域の実情に見合った、地域とのつながりを利用した防災教育の実践も数多くあります。また、近年、防災教育において必要とされる教科等横断型の防災の優れた取組も見られます。これらの優れた実践を参考にさせていただき、それぞれの学校における今後の防災教育の参考にさせていただければと存じます。

末筆ではございますが、今回、モデル校をお引き受けいただいた学校の先生方、児童・生徒の皆さん、教育委員会、各関係機関の皆様、多大なご協力をいただいた地域の方々、本事業に携わっていただきました皆様に厚く御礼申し上げます。青森県で育った子どもたちが青森県内はもちろんのこと、全国、世界のどこに行っても、災害から逃れて健やかに生活できることに、本事業が少しでも役立つことができれば幸いです。

